海上自衛隊 岩国航空基地

第８１航空隊　部隊改編式

第 71 航空隊 US-2

フレンドシップデー 2019

山口県岩国市に所在する「海上自衛隊岩国航空基地」には、民間空港である「岩国錦帯橋空港」と「米海軍海兵隊岩国基地」が隣接している。岩国飛行場は、昭和 13 年 4 月に旧日本海軍により建設が開始され、昭和 14 年 12 月に呉鎮守府所属練習隊を配置、昭和 15 年 7 月岩国海軍航空隊を開設。昭和 18 年 11 月には海軍兵学校岩国分校が開校されるなど、主に教育隊や練習隊の基地として使用されてきた。
岩国航空基地には昭和 48 年3月より第３１航空群が司令部を置いている。その隷下第７１飛行隊は、日本で唯一飛行艇を持つ部隊で、1976 年の発足以来 1055 件 1028 名の救助を行なっている。岩国市が「飛行艇の町」と言われる所以である。

そして昨年2020年は、日本海軍初の飛行艇が日本に来て100年の節目の年であった。戦前は九十七式飛行艇と二式飛行艇等を川西航空機（現在の新明和工業）が開発し、戦後は、世界で唯一波高3m の概要にも着水可能な対潜哨戒飛行艇 PS-1 から、滑走路へ降りられる脚を付けた水陸両用救難飛行艇 US-1 へと進化。2007 年より現在の最新鋭救難飛行艇 US-2 へと発展、新明和工業が製造している。
もう一つの隷下飛行隊として第８１飛行隊がある。令和２年９月３０日に第９１航空隊が解散し第８１航空隊と統合、第３１航空群を改編して10月1日に第３１航空群の隷下となった。

飛行隊の他、航空機の整備や補給をする第３１整備補給隊、基地業務を担う岩国航空基地隊、また江田島市所在の標的機整備隊が第３１航空群を支えている。
一方、第３１航空群の隷下ではないが、機雷掃海や輸送を行う第１１１航空隊と砕氷艦しらせのしらせ飛行科が岩国航空基地に所在している。
そして岩国航空基地といえば、毎年５月５日に開催される米海兵隊と合同で行われる「フレンドシップデー」は欠かせない。「飛行艇の町」だけでなく「基地の町」でもある岩国市。岩国航空基地の存在は大きい。

第31航空群司令　海将補　大西　哲

錦帯橋で有名な山口県 岩国市 に 位置 する岩国航空基地 は 長い歴史のある基地で、その起源は旧帝国海軍の飛行場として建設が開始された昭和13年にさかのぼります。
現在は、海上自衛隊と米軍が共同使用する基地となっておりますが、一部は民間機が使用する岩国錦帯橋空港としても機能しております。またこれらのことから、多数の、しかも大きさや速度等が全く違う多機種の日米の航空機が運用されているため、パイロット泣かせの飛行場でもあります。加えて、当基地で海上自衛隊が運用している航空機は、他の航空基地では見ることができない特殊な航空機ばかりであるため、航空ファンにとっても人気の飛行場となっています。
岩国航空基地における海上自衛隊の部隊としては、第31航空群すなわち、隷下の第71航空隊、第81航空隊、第31整備補給隊及び岩国航空基地隊、また江田島市所在の標的機整備隊が第31航空群を支えている。お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、かつて、第31航空群隷下にありました第91航空隊は昨年（令和2年10月にその機能を第81航空隊に統合したため、廃止となりました。
第31航空群は、第111航空隊とともに特殊な航空機により、特殊な任務を実施する、まさにオンリーワンを担う海自航空部隊です。特に新たな領域である電磁波領域において、私たちの右にでる部隊はありません。このため、私たちが「進化」を続けなければ、極めて速いスピードで変化し続ける安全保障環境に海上自衛隊として適合していくことが困難になります。
我々、岩国航空基地に勤務する隊員は、今後もオンリーワンであることを自覚し、一丸となって任務に邁進して参り参りますので、引き続き当基地へのご理解並びにご協力の程、何卒よろしくお願申し上げます。

岩国航空基地所在部隊等の構成と紹介

岩国航空基地所在部隊等

第３１航空群
群司令
司令部

第７１航空隊（捜索救難・輸送）

第７１航空隊は、水陸両用の救難飛行艇US－1をもって開隊され、遭難航空機や遭難船舶の捜索及び乗員の救助、離島等からの急患輸送等を実施しています。開隊以来１，０００回以上出動し、１，０００名以上を救助しています。US－2は岩国航空基地に常時待機しており、はるか洋上の船舶乗組員や離島の人々にとって心強い存在となっています。

第８１航空隊（警戒監視・情報収集、訓練支援）

第８１航空隊は、第８１１飛行隊と第８１２飛行隊の２つの飛行隊から成り、第８１１飛行隊は多用機EP－３及びOP－３Cを装備し、我が国周辺海域の警戒監視と情報収集を実施しています。
また、第８１２飛行隊は、多用機UP－３D、U－３６Aを装備し、艦艇部隊が行う電子戦訓練及び対空射撃訓練支援を実施しています。

第３１整備補給隊（航空機整備・補給）

３１整備補給隊は、岩国航空基地に所在する６機種と砕氷艦「しらせ」搭載機の計７機種の航空機や、航空機に搭載する装備品の点検整備及び燃料・部品の補給、地上訓練装置等の基地器材の維持管理を実施しています。

岩国航空基地隊（基地におけるサービスの提供）

岩国航空基地隊は、航空機の運航に関する支援、隊員及び家族に対する支援等、海上自衛隊の航空基地として各種サービスを提供するための機能を維持しています。また、本部と６個の部隊から成りそれぞれ、施設管理、基地警備、飛行支援・救難、給与・契約、厚生・給養、衛生・診療など、さまざまな業務を実施し、所要のサービスを提供しています。

標的機整備隊（標的機整備）（在江田島）

標的機整備隊は、艦艇部隊の対空射撃訓練で使用される標的機の整備及び整備員の教育等を実施しています。

第１１１航空隊（機雷掃海・輸送）

第111航空隊は、自衛隊唯一の航空掃海部隊として掃海・輸送ヘリコプターMCH－101を装備し、港湾及び水路の掃海業務や輸送を主な任務としています。なお、東日本大震災においては、食料・毛布などの救援物資の輸送に活躍しました。

しらせ飛行科（砕氷艦「しらせ」所属）

砕氷艦「しらせ」は、横須賀地方隊隷下の部隊ですが、「しらせ」飛行科は岩国航空基地において訓練しています。「しらせ」飛行科が運用するCH－101は、第111航空隊所属のMCH－101と同型機であるため、効率的な航空機整備等を考慮して、国内での整備及び訓練を岩国航空基地において実施しています。

基地の沿革

期　間	年	出来事
帝国海軍	昭和１３年(1938)	飛行場建設開始
	１４年(1939)	岩国海軍航空隊開隊
	１８年(1943)	海軍兵学校岩国分校　開校
米　軍	20年(1945)	終戦　米海兵隊進駐
	27年(1952)	日米安全保障条約に基づく 在日米軍基地
共同使用	32年(1957)	海上自衛隊共同使用開始
	37年(1962)	海兵隊岩国航空基地に指定
	48年(1973)	海上自衛隊第３１航空群　新編
	平成 22年(2010)	新滑走路運用開始（沖合移移設）
	24年(2012)	岩国錦帯橋空港開港
	30年(2018)	米海軍（第５空母航空団）移駐
	令和２年(2020)	第３１航空群改編 （第８１航空隊及び第９１航空隊を統合）

新たな領域（電磁波）への実効的対応を目的として、昨年１０月に部隊改編

昭和３０年代の岩国基地

第３１航空群庁舎

岩国所在航空機

第 81 航空隊 OP-3C

第 81 航空隊 U-36A

第 71 航空隊 US-2

MCH-101

100年になる飛行艇

戦前より世界最高レベルの性能を誇っていた日本の飛行艇。
2020年は飛行艇が日本に来て 100 年という節目の年だった。

対潜飛行艇ＰＳ－１

対潜飛行艇ＰＳ－１

二式大艇

二式大艇

令和3年1月14日、岩国航空基地で「潜水始め」が行われた。

訓練に先立ち、海へ「今年も無事に」と、第７１航空隊司令の鷲澤公一１海佐や川原健太郎先任伍長がお清めをした。沖合に出ても操縦士や潜水員、救助ボートから救護員などがお清めを行い、海にお酒が吸い込まれていった。まずは、潜降上昇訓練。水温 13 度の中に４人の潜水員が吸い込まれていく。暫くすると４つの指先が見え、息を切らして海面に昇って来た。その後はスノーケル泳法訓練。三角のような美しいラインで５人揃っての泳法。キラキラとした海に水飛沫が舞い踊る。そして US-2 による離着水訓練、支援船による放水と続いた。支援船による放水は、海上火災時などに行うという。US-2 の離着水訓練は、見る者を圧倒する。空から降りて来た US-2 のお腹部分が波の白と一体化した次の瞬間には名残惜しそうに白い飛沫を舞い散らして上昇していく。前日の荒天が嘘のような穏やかな訓練始め。令和３年も第３１航空群は海で空でと警戒監視や情報収集、洋上における捜索救難と２４時間体制で隙間のない任務を行なっていく。

訓練後の救命ボート、真水で全て海水を洗い流す

潜降上昇訓練

スノーケル泳法訓練

海へお清め

支援船による放水訓練